

海外派遣留学プログラム報告書 (報告期間：2019/09/06 ～2020/01/06)

1. 勉学の状況

秋セメスターにとっていた授業全てが 12 月中旬に終了したあともしばらくは課題に追われる日々が続いていました。しかし、ようやくそれらもひと段落つき、8 日から始まるスウェーデン語の集中講座まで少し余裕を持って日々を過ごしています。ここからは、各授業について簡単に振り返りたいと思います。

- History of Education (0819～0913)

前回の報告書でも少し触れたように、スウェーデンに注目しながらもヨーロッパ全体の教育史をざっくりと学ぶ授業です。週に 1、2 回ほどある 2 時間ほどの先生による講義形式の授業と、週に 1 回のグループワークがヶ月ほど続きました。グループワークは、各回までに各々が文献を読み込みそれについてのディスカッションをするという内容でした。毎週、グループワークに参加する人数が減っていき、最後は日本人とシンガポール人数名という状況でした。ざっくりとヨーロッパの教育について知るには適している授業だと思いましたが、正直、私は少し物足りなく感じました。

- International Course in Drama Communication (0819～1216)

演劇の理論を学びながら、ノンバーバル、バーバルのコミュニケーションを通じた対人関係の育み方、文化の違い、劇を用いた教育、についての考えを深めることができる授業です。12 月前半までは週に一回 4 時間の中で、エクササイズを通して理論を体感的に学んだり、読み込んだ文献について先生も交えて議論をしたり、文化の違いについて意見をかわしながら授業が行われ、12 月前半からは、最終課題である 20 分の演劇の上演に向けて、毎日のようにグループで集まって舞台を作りました。自分の考えや自国のことについて尋ねられる機会がとても多く、最初は少し戸惑い、自分から発言することに躊躇することも多々ありました。しかし、先生が私たち生徒をディスカッションに巻き込むことが非常にうまく、クラスのメンバーの雰囲気がとてもよく、話す途中で詰まることや間違えることを恐れるよりも、伝えたいという気持ちのほうが強くなり、中盤からは積極的に意見を言えるようになりました。そうしたことで、英語で表現できるかの自信がなくても口に出してみると、案外伝わるし、恐れるよりもまずは行動に写すことが大切であると学びました。もちろん文化の違いを目の当たりにし苦しかった瞬間も自分の英語力ががっかりする瞬間もありました。しかし、授業内容以外にも非常に多くのことを学ぶことができるのに加え、かけがえのない仲間も得ることができたこのコースは、今期とった授業の中で間違いなく一番とってよかったと思えるコースです。

- Nordic Culture -Area of emphasis: Educational Sciences (0828～1205)

北欧(スウェーデン、フィンランド、デンマーク、ノルウェー、アイスランド)の様々な文化について学ぶ授業です。週に一回ある講義に加え、秋セメスターでは、リンショーピンの田舎に行きスウェーデンの自然に触れる宿泊授業と、ストックホルムに滞在し街の歴史や成り立ちを学ぶ宿泊授業も開講されます。カントリーサイドトリップの中で、サウナに入り満点の星空の下湖に飛び込んだのがとてもいい思い出です。

- Beginner's Course in Swedish for Exchange Students, level A1 (0917～1210)

スウェーデン語の一番初心者用のコースです。週に一回 3 時間の授業があります。今まで受けてきた文法をととても丁寧に教えてくれるような語学の教授法ではなく、つまづきそうな部分にフォーカスして教え、実践(宿題として課される問題集)ののちに質問を受け付け答えるというような流れで授業が展開していきました。個人的にスウェーデン語を学ぶことは楽しかったし、文法や単語も少し英語に似ていると感じました。しかし、授業だけでは理解できない部分や、特に発音の面でスウェーデン人の友達にたくさん助けられました。

春セメスターでは、Beginner's Course in Swedish for Exchange Students, level A2,B1、The Swedish Model, Introduction to Special Education in a Swedish Context、Teaching Practice の合計 5 つの授業をとる予定です。

2. 生活の状況

もうすでに日本に帰るのが億劫なほど、リンショーピンでの生活はとても心地がいいです。多くの人から聞いていたスウェーデンの陰鬱な冬を経験していますが、それほど生活に支障をきたしているとは感じません。ただ、午前10時によく明るくなったと思いきや、午後3時半には暗くなると、太陽がとても恋しく感じます。天気よりも最近友達との別れを経験し、寂しい気持ちになることが多かったです。リンショーピン大学に交換留学生としてくる生徒の大半は、1セメスターで帰ってしまうため、ようやくできた完全に心を開いた友達ともしばらく会えなくなってしまいます。寂しいと思うのと同時に、たった半年にも満たない中でかけがえのない友達ができたととても感謝しています。異なる文化や考え方をもった人々と友達になって一緒に時間を過ごしている中で、今まで自分がどれほど狭い視野で物事を見てきたかということや、意識せずにもっていた偏見に気づくことができました。また、最近になってようやく、何も考えずに英語を話したり聞いたりすることができるようになってきました。ただ、語彙力や表現の幅がないことで、日本語だったら伝えられるのに、と歯がゆい気持ちになることはまだまだあります。街で見かけるスウェーデン語の意味はなんとなくとれるようになってきましたが、やはり会話になるとまだまだ難しいです。勉強や予定に追われていた前セメスターの二の舞にならないよう、余裕をもって悔いのないように残り半年を過ごしたいと思います。



※写真について

- ・左上；この日は、ファーストアドベント（12月の最初の日曜日）だったので、スウェーデン人の友達のお家でジンジャーブレッドとサフランパン作りをしました。これらはスウェーデンのルチア祭やクリスマスに欠かせない食べ物です。なんと5時間近くかかりました！！
- ・右上；天気の良い日のストックホルムの景色です。行けば行くほど好きになる、不思議な街です。
- ・左下；クリスマスはスウェーデン人の友だちの実家にお邪魔させてもらい、とてもとても素

敵な時間を過ごしました。実はこのクリスマスツリーは 23 日の朝に友だちのお父さんに連れられ、モータバイクで森に行き切ってきたモミの木です。他にもケーキを焼いたり、ユールボートというスウェーデンのクリスマスのビュッフェを親戚の皆さんと楽しんだり、恒例のビンゴに勤しんだり、始めて本物のクリスマスを経験したような気持ちになりました。

・右下；ウィーンのクリスマスマーケットです。ホットワインが美味しかったです！